

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 山口 博

山名	半作嶺・大塔山	山行名	個人
ルート	3/25 大塔青少年旅行村—登山口—分岐—半作嶺—分岐—三つ森山—分岐—登山口 3/26 大塔青少年旅行村—弘法杉林道P—登山口—ピーク—大塔山—登山口—林道P		
山行日	3月25日から26日	天候	曇り晴
参加者	リーダー：山口 サブリーダー：佐坂 男性：8名 秋月 金本 中島 西川 西上 山下 女性：3名 秋山 堀尾 山田 合計：11名		

	コースタイム			
	地名	時：分	地名	時：分
前方は半作嶺 乙女の寝顔	3/25 新田辺 大塔青少年旅行村	発 6:00 着 10:00	3/26 旅行村 弘法杉林道P	発 6:00 着 6:50
	登山口 半作峠分岐	着 10:25 着 10:55	弘法杉登山口 ピーク	発 7:30 着 10:00
	半作嶺山頂	着 11:45 発 12:20	大塔山山頂	着 10:25 発 11:00
	半作峠分岐 三つ森山	着 12:55 着 14:10	弘法杉登山口 林道P	着 13:25 着 13:50
	半作峠分岐 登山口	着 15:20 着 15:40	弘法杉林道P 新田辺	発 14:00 着 18:30

山行報告

山友会に入会して15年に成りますが関西の山も半分位は登ったのだろうか？

2009年に日本百名山を完登して、これから次の目標を何にするか考えた時、関西百名山が浮かんできた。調べてみたら20山が未登であり兵庫の西部と和歌山南部の山が多かった。登り難い奈良大峰山系は2008年に大峰奥駈道縦走90キロを走破したので全て登っている。



例会ではなかなか計画されない山はこれまでに個人山行で登って来たが、登山口まで行くのに時間が掛かる和歌山南部の山だけ未だ8山が残っている。

先日友人のKさんとお茶を飲んで居てこの話をしていたら「2月に半作嶺と大塔山に登って来たが登山道入り口が判り難く探すのに苦労した」と話していた。案内をお願いして快諾頂いたので早速に同行者を募った。「かんなび」原稿が締め切り後であり連絡網で流して頂いた所11名の参加者があり車2台で行く事にしました。

6時新田辺を出発して10時に本日の宿泊地の大塔青少年旅行村に着きました。



受付を済ませて10分で登山口に到着しました。頂上までは2時間の登りですが流石に関西百名山、急登で岩場もあり登り応えの有る面白い山です。頂上からは前方にこれから登る三つ森山その先に法師山や大塔山が連なって居ます。半作嶺だけでは物足りないので三つ森山まで登る事にしました。三つ森山は半作峠分岐まで下り此処からのピストンです。

三つの山のアップダウンで思ったよりハードでしたが、落ち葉を踏みしめての歩き易い登山道で山行を楽しみました。

下山後「乙女の寝姿」のビューポイントで登って来た半作嶺を見るとこれだけ登って来たのだと実感しました。大塔村の村おこしで旨いネーミングです。因みに富里温泉も「乙女の湯」です。温泉は地元の方が入られる位で今日は他に客も無く良い温泉でした。今日の宿泊地の青少年旅行村に5時に到着しました。今日の施設利用者は私達だけの様です。私達が借りたのは定員12名のバンガローですが暖房も和室もあり快適でした。

早速夕食準備に掛かりました。お釜でご飯を炊いて後はすき焼です。持参のビール1ケースも入浴後から飲んでいたので直ぐに無くなり、ワインと焼酎や酒での懇談で盛り上がりました。その間私はA女史と夕食と明日の弁当のおにぎりの作りです。クッキングパパでの経験が役に立ち皆さん吞んでいる間に完成です。



26日快晴

通常は熊野川町の足郷トンネル東口を越えて船見峠が大塔橋のどちらから登るのですが、昨年の台風で林道が閉鎖されて居るので大塔村から登る事にしました。

6時に青少年旅行村を出発して林道を走りましたが、道路は落石など多くて右左と落石を避けながらで運転される方は大変です。6:50に弘法杉林道の車通行止めに到着しました。林道を歩いて30分で弘法杉登山口に到着して7:30に出発しました。此処からはいきなり急登で杉の植林帯を直登します。ピークまで2時間半ここからは25分で大塔山の頂上に到着しました。

頂上は森林保護の為の鹿除けの網に囲まれていて網を開けて入りましたが、壊れた標識が転がっていてこれを持って記念撮影をしました。3時間半の登りで、往復6時間半で登り応えの有る山でしたが、13:30に全員無事に下山しました。

帰りの高速もスムーズに走れて18時30分に新田辺に帰って来ました。

念願の和歌山の関西百名山を2山登る事が出来ました。天候に恵まれての楽しい2日間でした。

和歌山南部の山は遠いだけで無く登り応えの有る厳しい山でしたが、お天気にも恵まれて2日間楽しませて頂きました。同行頂きました皆様ご協力頂き有り難う御座いました。



感想文

関西百名山

半作嶺 893m・大塔山 1121m

‘13.03.25~26 秋月 康敏

名前の由来 半作嶺：江戸時代の地誌「紀伊続風土記」に、半作にハズサとふりがなをした上で「半作は木の名、水目桜（みずめぎくら）ともいふ」と記してあるそうだ。

大塔山の由来は不明

半作嶺（はんざれい） 大塔青少年旅行村のバンガローに泊って和歌山の関西百名山2つを登る「山口企画」が出た。約2年前に山口・佐坂さんとの話の中で、関西百名山は殆ど登っているが和歌山は全部残っていると事だった。私も和歌山地区は未踏破なので「行くならテント泊でもして、1回で2つくらい登らないと時間ばかりかかるね・・・」との会話だったことを思い出す。

松井山手を6:15に出発、第二京阪・近畿高速経由で和歌山、かなり便利になり行きやすくなったが、やはり和歌山は遠い！走行距離は片道200km強にもなり大塔村青少年旅行村に着いたのが9時40分、3時間半もかかった。入村手続きをしてバンガローに食材など荷物を降ろす。周りの景色は川が蛇行して水はきれいだしキャンプには絶好の場所で、夏場は水遊びで子供が喜ぶところだ。長い吊橋がありバンガローまで歩いて渡る人もいと話してくれたが私は車で行った。

10時40分路肩に車を止めコンクリートで固めた登山口だった。20分ほど登ると大きな一枚岩がデーンと聳えていて、そこを通過すると三ツ森山との分れになる。そこが半作峠で2体の地藏尊との出会いであった。半作峠は、熊野や木守などの山間に暮らす人々が大塔村へ通う生活道だったという。12時、山頂に着いたが標識がない。山頂に標識がないというのは何とも寂しいものだ。どこかのパーティーが付けた小さな古びた記念標識が1個ぶら下がっているだけだった。気の毒な気がする。

三ツ森山 950m:少し寂しい半作嶺山頂から遠くに見える三ツ森山を見た。まだまだかかりそうだ。山頂から2時間かけて三ツ森山の頂上に着いた。ここにもどこかのパーティーが付けた標識しかない。以前、先輩の佐々木さんと山城30山の登頂記念標識を2~3箇所付けた。誰かの反対があり、以降は付けるのを止めたが、山の標が無いのはやはり寂しいもんだ。後日「京都田辺山友会」の記念標を付けた山へ行った時は本当に懐かしく感じたものだ。振り返って半作嶺を見ると、よくも歩いたもんだと我ながら感心する。三ツ森山の方が高いのだが、何故か半作嶺の方が有名なのだ。15時44分無事下山。5時間の山行だが、結構きびしい登り応えのある山だった。ガイドブックでは一般向きと記載してあるが、中級向きとしてもおかしくない山だと感じたし、誰もがそう言った。

乙女の寝顔 下山して車に乗るとバンガローとは反対方向へ車が走り出した。「方向が違うよ」と云うと乙女の寝顔を見に行くとのこと、ほんの暫く走るとビューポイントに着いた。すばらしい寝顔を見て・・・

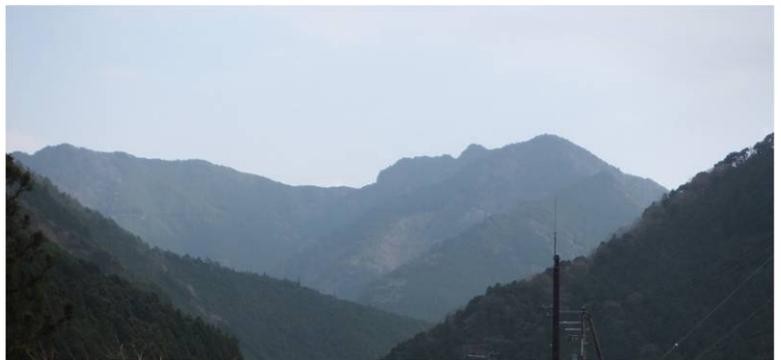
「乙女の湯」で汗を流した。なぜ乙女の湯なのか意味不明だったが、そうなんだ！山の姿が乙女の寝顔なんだ・・・と気がついた。夕食は「すきやきパーティー」で賑わった。

美酒あり 佳肴あり 知友あり、

これすなわち人生の醍醐味なり

大塔山（おおとうやま） 夕べは早く寝た。多分9時過ぎにはシェラフに潜り込んだ。念のために持参したシェラフカバーは役立った。朝4時過ぎに誰かが起きる音で目が覚めた。朝食はまるでホテル並みだ！パンは2~3種類、肉うどん、生野菜、ヨーグルト、ウインナー、ハム、キュウリ・・・、やはり山口企画は一味違うわ！おにぎり弁当・お茶・レタス・ウインナーを持って出発。今日も元気だ、天気がいいわい！

弘法杉登山口に向かったが、道が細く、幽谷で、崖崩れの石がゴロゴロ！、とてもスムーズに走れる状況ではない。一つミスがあれば崖下へ転落する・・・、以前に九寨溝・黄龍へ行った時の5000mの山



越えの道と同じだ。少し大きな石が転げ落ちてきたらひとたまりも無く崖下へ落ちてしまいそうな道が延々と続く。約1時間は走っただろうか、やっと弘法杉の看板がある駐車場に着いた。

今日も急登だ！出来るだけ荷物を軽くしてスタートした。

弘法杉「1000年の命を次の1000年へ・森の巨人達百選」の標識

その昔弘法大師が熊野詣での道中、大塔山の麓のこの場所で昼食を食べた時、木の枝を折って箸の代用として使い、食事後その枝を土へ突き立てたものが成長して現在の2本の杉の大木になった・・・樹高45m、幹周6.1m、樹齢400～500年と記されていた。

駐車場から約30分で弘法杉登山口に着いた。ガイドブックにはこのコースは往路2時間半、復路:2時間で昼食タイム含めて5時間、健脚向きとなっている。先輩が一人で登ったのも同じコースで弘法杉から5時間だったという。だとすると今日は6時間はかかるだろうと推測した。約30分で駐車場から弘法杉に着き、7時35分登山口を出発。

大変な急登だ！尋常ではない！やっと尾根に出た！細い細いやせ尾根で、フラつくとも100m以上の崖下へ直行だ。やっと山頂に着いたと思ったら、標識は単なる「山」とだけ記してある。「もうええわ！ここでええわ！」と言って写真を撮った。佐坂さんは「その山の文字の上に、好きな文字を入れたら〇〇山になって百名山も自由自在だ」と云った。そこから右手に見えるのが目指す山頂だ！まだ1時間はかかりそうだ。「もうチョイや、もうそこや・・・」と山口さんが慰めとも元気付けとも分らん叱咤激励する。

「もうちょいやカードは5枚しか渡していないよ」と山下さんが言う。やっと山頂を捉えた、鹿対策なのかネットが張ってある「何だ！これは・・・山頂には行けないのか・・・」佐坂さんがぐるっと回りこ



んでやっと頂上に着いた。後で分ったことだが、駐車場のところに張り出してあった標識に「大塔山の山頂保全について」と記述には、平成10年に隣接する前の川国有林と大河奥官行造林の一部が誤って伐採された。その後鹿などによる食害や風による乾燥化、あるいは心ない登山者による新芽などの刈払いなどが原因になり、伐採されたところは草原化した。それで防護フェンスを張ったと書いてあった。山頂からの景色は最高だ！きびしい山だったというのが全員の感想でした。7時間かかりました。近來にない記憶に残る山でした。

やっと下山！お疲れさんとねぎらう山口さん

半作嶺 (894 米) ・ 大塔山 (1,122 米)

西上 正

和歌山県内に関西百名山が12座ある。今回その内の2座が計画され参加した。両座共紀伊半島の内で奥深い所にあるが、国有林が多い所の為か林道が整備されているので山登りをする者にとっては車の利用が出来非常に助かる。

今回は、大塔青年旅行村をベースキャンプに早朝新田辺を出た。キャンプ場に手続きと泊りの荷物や食材を預ける為立ち寄った。係りの地元女性に聞いたところ、集落は20軒位で人は30人位とのこ

と。戸数はもっと多く数えられたが無人化が進んでいることか。道中、車も人にも会わぬ中に登山口に到着した。今日は、三ツ森山(950 米)と半作嶺をピストンの計画である。各々に準備をする。仰けから急登である。30 分位で尾根の鞍部に着いた。此頃から尾根筋を徐々に高度を上げて 1 時間 30 分位で三ツ森山に着いた。山頂は大きな露岩である。それも傾斜していて足場が狭く不安定で危険を伴うので、あまり登る人は居なかったように思った。早々に此所を発し半作嶺へ向かう。杉の木立を進んでいると地蔵尊の祀られている半作峠に着いた。苔口と露口を結ぶ山間の道であるが、今は自動車道も出来ており、歩いて越える人はいないであろう。しかし昔は、移動をするにも大変な苦勞が伴ったことを思い知らされる。峠を越え尾根の露岩を登って半作嶺の岩峰に立つ。360 度思いのままの展望を楽しむ。下山は帰路を通り林道を目指す。

日暮れまでに時間があり、平瀬に『乙女の寝顔』を見に出掛ける。成程に優しい乙女の顔付き。眼や鼻、口元まで恰も釈迦入滅の涅槃像のように尾根に横たわっている乙女の姿を感じた。満足な気持ちを持ちながら富里温泉『乙女の湯』に向かった。温泉もすいており、登山の汗を流しサッパリした。今夕の食事は「すき焼き」。山口氏が一切の用意をして下さったとのこと。空腹を存分に充たせた。矢張り山深い今夜の宿は次第に冷え込んで来た。寝袋と毛布に包まって寝るが、寒さで熟睡が出来ず。

5 時頃起床。山口氏と女性達で朝食や昼の弁当が手際よく整えられる。6 時頃より朝食。しかし私は全然進まない。7 時頃大塔山に向かって出発。林道出合の駐車場から弘法林道を約 30 分歩いて登山口の弘法杉(樹齢 450 年)に。ここから大塔山頂まで約 2 時間 30 分。案内では比較的歩き易いである。順調なペースで東のピークに到着した。その時急に私の体が重く感じられ歩く意欲が皆目失せてくる。初めての体験だ。頂上まで 100 米少しでルートも目視出来る。リーダーに無理を云って個人行動にしてもらった。皆さんは元気に出て行く。一人残った屈辱に我慢ならず皆さんの後を追う。この間、N 氏が私を案じて遠くから見守って下さっていて感謝したい。ヤットの思いで登頂が出来た。用意して戴いていた弁当は食べられなかったが、戴いた果物で元気が戻ってきた。流石大塔山頂からの眺めはスバラシイ。法師山、入道山がおいでおいでと呼び掛けてくれているように思えた。

今回の企画も、一切のお世話を戴いた山口氏に厚くお礼申し上げます。また、車運転の N 氏、S 氏有難うございました。また、女性 3 人を始め男性諸氏には楽しい 2 日間有難う。

南紀の山 半作嶺・大塔山を訪ねて

堀尾 洋子

武蔵坊弁慶のふるさととして知られる田辺市は古より紀伊山地の霊場と参詣道で中辺路と大辺路の分岐点として有名である。大塔日置川県立自然公園大塔エリアは南紀の秘境と称され豊かな自然が残されています。

マイカー 2 台 11 名で 6 時半に京田辺を出発しました。南紀 IC から中辺路が通じる歴史色も豊かな滝尻王子の標識を見て、富里にある大塔村青少年キャンプ村に着いた。

受付を済ませ毛布など借用して日置川にかかる立派な吊り橋を渡り荷物を置いて登山口へ向う。

(10:25 着) 駐車場は我々の車 2 台のみ。準備をして出発した。

杉木立に見え隠れする大岩のそばを通り 20 分程行くと樹林の中に 2 体の地蔵尊が迎えてくれる。三ツ森山を分ける半作峠に着いた。稜線を登り返し熊笹の生える急斜面となり、更にアップダウンを繰り返して尾根に取り付くといよいよ半作嶺の小さな岩峰の頂きであった。(11:45 分着) 頂上は狭く背中を寄せ合っただけの昼食となった。

ミツバツツジが彩りを添えて華やかだ。山頂からは 360 度の展望が開け、小辺路を歩いた果無山脈の峰々や奥高野の山稜が春霞にぼんやりと見えた。

半作峠に戻り三ツ森山を目指して東方に歩を進めた。馬酔木が白い花房をいっぱいつけて歓迎の花道である。シロモジの花も咲き、桜も負けじと群生している。足元には 3~4 センチに満たない草丈でバイカオウレンが白い五弁の花を咲かせて楽しませてくれる。とても可憐な花だ。コブシが咲きシ

ヤクナゲやツツジが生息する登山道は流石に岩が多くて難路である。4 月上～5 月中旬頃にはピンクのアケボノツツジや黄色のヒカゲツツジが満艦飾に咲き乱れるのであろう。三ツ森山の山頂はツツジやシャクナゲの生える岩峰でこれまた 360 度の大展望である。

東には百間山・法師山が座し、振り返ると半作嶺の岩峰が見え感慨深かった。山頂を後にして大岩を越え乍ら下ると、熊笹の茂る急下降となり、植林帯を抜けて半作峠を右に折れ登山口へと急いだ。

R371 号を北に行けば平瀬集落があり、半作嶺を「乙女の寝顔」に例えられる好展望の地である。犬の散歩をしている人に思わず声をかけたら「ここは何もないけど、この展望に癒されます」とおっしゃった。その名に因んで名付けられた富里温泉「乙女の湯」はナトリウムイオン泉で太古の眠りから醒めて自噴しているという。何時ものことながら下山後の温泉で感激の一瞬を味わった。

日置川と山々に囲まれた自然豊かなキャンプ場旅行村に戻ってきたのが夕刻 5 時半頃だったか、12 人分のすき焼と朝食の肉うどんとパン、そして昼食のおにぎりの材料や飲料と調理器具を一手に引き受けて前日から準備して下さった山口リーダーには恐縮至極！！有難い。夕食は豪華なすき焼を囲みビールで乾杯！！笑顔と充実感が漲るひとときを楽しんだ。昼食のおにぎりを 40～50 個作って下さり明朝に備えた。

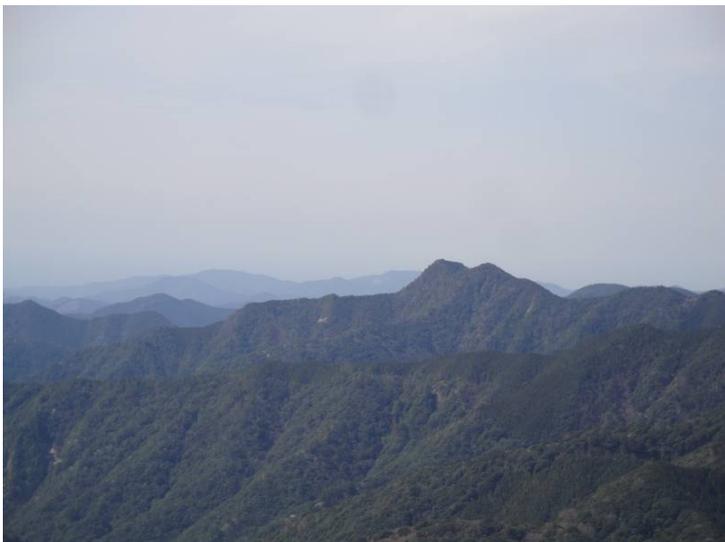
次の朝 4 時すぎ起床する。夕べは寒かった。朝食をとり後片づけをして予定より 1 時間早く 6 時に出発する。林道駐車場は今日も我々のみで準備体操をして早速出発した。

日置川支流の流れは岩を削って溪谷を更に深くしている。透き通ったエメラルドグリーンの清流の瀬音は足取りを軽くしてくれる。30 分で登山口の弘法杉に着いた。

弘法大師が昼食に杉の枝を折って箸にして刺したものが弘法杉だと云われ超木が 2 本立っている。

大塔山は古座川市と田辺市にまたがる紀南地方の山々の中心的な存在で古座川の源流となっている。登山道は杉や桧の植林帯に覆われているが赤くつつるした木肌のヒメシャラが初春の日差しを受けてひと際目に鮮やかである。時折広がる自然林の中にシャクナゲやアケボノツツジなどの木々が見受けられ花の盛りを思いうかべながら歩く。

2 時間半を要して 10 時 20 分にピークを踏んだ。ツガ・モミ・シイ・カシ等の照葉樹林が混成する山肌を行くと、頂上付近はブナの原生林でふかふかの絨毯が靴底に嬉しい。久々にブナの感触を味わい満足した。大塔山のブナ林は本州最南限であるらしい。鹿の食害を防ぐためネットで囲まれ違和感は拭えない。理解と協力を求める看板が山麓と山頂に立っていた。



早目の昼食に皆で美味しいおにぎりを頂き満足である。山頂からは西方には法師山・百間山・三ツ森山・半作嶺が波打ち更には田辺湾と南方に熊野灘が望めた。頂上からの絶景は広大なブナ林と相俟って疲れた身体を癒してくれる。

11 時に去り難い思いを残して頂上を辞し慎重に下山にかかる。

上りに緊張した足場の悪い急斜面はいつしか避けてひたすら降る。

山肌には淡いピンクの山桜が控え目にアピールしていて微笑ましい。登山口近く上から見下ろす弘法杉はさすがに威厳が感じられて立派だ。13 時 30 分到着し駐車場に急いだ。

しばらく停滞気味の私の山行を満たすのに十分な山旅であった。ありがとう。